



「キラリと光る中味のレベルアップ」

社団法人中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 福島 繁

2007年正月、おめでとうございます。会員及び関係者の皆様におかれましては、すがすがしい新年をお迎えのことと存じます。

平成18年度は事業計画にそって順調に進んでいます。昨秋は10月近畿ブロック経営シンポジウム（大阪支部幹事）11月近畿ブロック事務連絡会（当支部幹事）等多くの行事が続きました。これらは理事始め会員諸氏のご尽力、ご支援の賜物であり御礼申し上げます。昨年4月には新中小企業診断士制度が改正となり、診断実務支援事業がスタートしました。また1月より支部事務所が移転し、広くて便利になり活発に活用されています。こうした活力ある成長の流れを踏まえ、基本目標「魅力と特色ある支部」を目指して取り組む所存でございます。本年も皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

昨年を回顧し、本年の所感を記します。

(1) 2006年の支部10大ニュース

1. メールマガジン「まねじめんとサブリ」創刊：1月
2. 役員改選＜新体制がスタート＞：5月
3. 受託開発センター及び更新支援委員会の設置・発足
4. 神戸市中小企業訪問調査(500社)連続2年実施。
5. 農業経営研究会発足：マスター調査事業実施
6. 各種企画セミナー開催： 地域産業研修会
元気企業交流会 経営計画 BSC等
7. リレバン5社との支援事業順調に実施：巡回経営相談事業等
8. 近畿ブロックシンポジウム及び近畿ブロック事務連絡会開催

9. 中小企業技術評価制度診断が進展する。18年度11月現在23社

10. 診断ひょうご：72号～75号発刊

(2) キラリと光る中味をレベルアップする支部へ

4つの委員会と受託開発センター、10の研究会、会員メーリングリスト、事務局設備等を含め会員の皆様のバックアップする支部体制・形態は確実に整ってきました（まだ不十分な点はありますが...）

本年はこれらの委員会、研究会、事務局体制等の中味・内容のレベルアップを図るべきです。そのために平成19年度事業計画を例年以上に工夫し、作成する事が必要です。

診断士、経営コンサルが“紺屋の白袴”にはなりません。自ら支部活動で実践し成果をあげよう。そして出来ればそのモデル、体験をコンサル活動に活かしてゆこう。

(3) 2007年の主な予定課題

1. 会員研修の益々の充実
2. 委員会活動の内容充実
3. 受託開発センターの前進と工夫（標準商品開発等）
4. 事務所活用の工夫
5. 2007年問題対応の診断支援の工夫

「フレンドリーで面白い支部！」
力を合わせハッピーな1年にしよう。



人口規模約650万人強の「団塊世代」(1947~49年生まれ)が、今年から定年を順次迎えます。就業者の約1割を占め、世代全体で50兆円以上ともいわれる退職金を手にするため、企業内のみならず社外・市場への影響が非常に大きいです。新たな市場機会、ビジネスチャンスもそこに見出すことができるでしょう。

そこで診断ひょうごでは、シリーズで各々の業界に精通した診断士の方にそれぞれの業界の動向を紹介していきます。今号では「観光業界」と「日本酒市場」です。

観光業界の 今後の展望・対応策

兵庫県支部 副支部長
大場 一正

平成18年12月8日の日経新聞によると、「定年退職記念として真っ先にしたいこと」では、第1位が国内旅行(40.9%)、第2位が海外旅行(40.5%)である。また、定年退職後に「日常の生活費以外に重点的に支出したいもの」でも同様に、国内旅行が64.8%、海外旅行が42.3%と人気が高い。観光業界にとっては、絶好のビジネス・チャンスである。

この世代の共通の特徴は、「健康」「自然」「地域」「能動」「情報」に係わる強いニーズである。小さい時から競争社会で育った彼らは個性が強く、「自分らしい豊かな余暇のあり方を見つけて実現していきたい」という強い志向を持っている。現60代に比べ、インターネットにも堪能している。このため、観光業界はありきたりのプランでなく、多種多様な対応が求められる。以下、この業界における最近の取り組みを紹介したい。

旅行業者

- ・JTBでは平成18年4月の分社化に伴い、団塊世代を中心とした海外旅行専門会社(JTBグランドツアー&サービス)を設立。
- ・近畿日本ツーリストは、団塊世代を対象に、テーマ性を前面に押し出した提案型商品、メイト日本讃歌「しばし京都人」、「おいしい好きは金沢轟真」を平成18年6月以降、順次発売開始した。

旅館

- ・「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で26年連続総合1位の和倉温泉・加賀屋では、団塊世代の還暦祝い需要に焦点を当てていく予定(PHP「加賀屋の流儀」より)。
- ・三朝温泉観光協会の中村事務局長は、『団塊世代の顧客獲得では、「遊び心」と「体験もの」を取り入れた企画が必要になる』と話す。
- ・信州蓼科の老舗温泉旅館・横谷温泉旅館は、団塊世代対応の「そば打ち検定」付き新商品として、「自然」

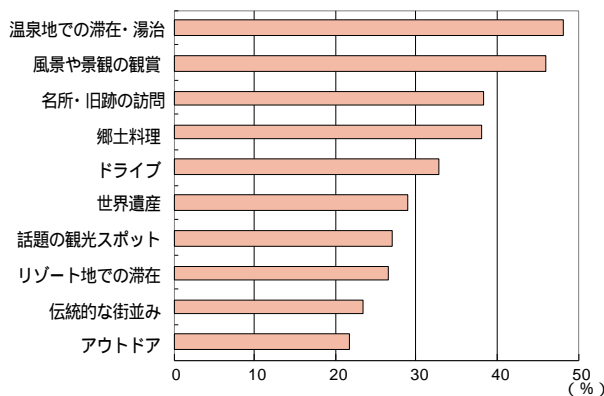
と「健康」をふんだんに取り入れた体験プラン「横谷峡・蕎麦打ち修行7日間の旅」を独自に開発・発売。

ホテル

- ・新宿プリンスホテルでは、“懐かしさ”をテーマに、同世代の青春時代に流行したディスコホールを再現したり(平成18年8月から2か月ごと)、当時の学校給食が味わえたりする(期間限定)サービスを開始。
- ・帝国ホテル東京も平成18年7月から、「大人の卒業パーティー」と題した宴会パックを発売。料理は昭和40年代に提供していた洋食を、会場では当時流行した音楽を流すほか、入社当時の思い出の写真をもとにDVDスライドショーを作成して上映するなど。

団塊世代の「健康」をはじめとするニーズにきちんと対応する商品・サービスを開発し、彼らの豊かな余暇ライフを実現できるサービスのあり方とその仕組みを作ることが決め手となる。特に、自社HPをいかに活用するかである。

「団塊世代のこれからの10年で参加してみたい旅/上位10」
(2006年レジャー白書より)



自治体

- ・兵庫県...平成18年11月11日、神戸市西区に団塊世代を対象とした農業体験施設を開設。
- ・和歌山県...平成18年11月から、都市部の団塊世代をターゲットに「田舎暮らしモニターツアー」を実施。希望者には空き家や農園の斡旋。
- ・滋賀県...平成18年度から、旅行と歴史講義をセットにした商品づくり。

2007年 問題を考える

2007年以降の 日本酒市場

兵庫県支部
藤尾 政明

団塊の世代は圧倒的な人口の多さから、戦後社会において常に大きな影響を及ぼしてきている。この世代が学校へ就学する時期がくれば、学校はパンク状態になり、子をなす時期は第二次ベビーブームと呼ばれ、車や住宅その他あらゆる分野において、この世代が志向すれば、その関連市場にブームが巻き起こっているのである。



これほどまでに、社会に大きな影響を及ぼす世代がいよいよ現役を退き、余暇時間を持つようになる。当然、会社の再雇用、定年延長などの措置で、すぐに引退しない人もかなりいるだろうが、少なくとも精神的にゆとりを持つようになることは間違いない。とりわけレジャー関連の業界等がチャンスと捉えているのも当然であるが、他の業界や社会全体にもかなりの影響があるだろう。

酒類業界について考えると、やはりキーワードは「ゆとり」ではないだろうか。この「ゆとり」によって、飲酒スタイルが微妙に変化することが考えられる。結論から言うと、日本酒が復権するのではないかということである。

昭和40年代にピークを迎えた日本酒市場はその後減少の一途をたどり、今は最盛期の半分以下の消費量にまで落ち込んでいる。その原因は様々なことが言われているが、大きな要因の一つに時間的に「ゆとり」がないこと

があげられる。というのは、日本酒は飲むに当たって決して「手っ取り早い」酒ではないからである。

日本酒復権のために、様々な施策が行なわれたが、その中に業界をあげて取り組んだ「日本酒で乾杯」運動というものがある。様々なシーンで乾杯を日本酒でおこなう慣習を根付かせようとしたのである。結果的にはあまり効果は上がらず、運動も下火になってしまっている。

逆に乾杯に当たって、「とりあえずビールで!」という言葉が日常的に耳にする。この「とりあえず」も大きなキーワードである。「とりあえず」「とりあえない」「とりあっている暇はない」ので、「ビール」で乾杯ということになるわけで、時間的ゆとりのなさから、「手っ取り早い酒」で!ということになる。おそらく「耐ハイ」もその流れの中にあると思われる。

前述したように、圧倒的な人口の多さから社会に多大な影響を与えてきた団塊の世代が、時間的にも精神的にも「ゆとり」を持つようになることは、酒類消費の構成比さえ変えていくことになる可能性を秘めているのである。

極論であるかもしれないが、私は日本酒市場が復活すれば、日本の農業も復活すると考えている。例えば、純米酒を一升(1.8L)造るには、米約八合を必要とするのである。

2007年が日本酒復権と日本の農業復活の始まりの年になることを期待している。





2007年
年男
新年の抱負



西野 廣

(昭和 10年生まれ)

「碁は面白い」

碁は面白い。藤沢秀行名誉棋聖の名言に「碁の神様が百なら、私は四か五しか知らないから、私たちは勉強していくらでも強くなれる。難しさを知れば知るほど、面白くなるのだ。私は、現在囲碁と支援業務の二兎を追っています。この二つのベース(基本)の考え方は同じと思っています。私が現在の業務を始めて今年が丁度10年になります。この間、皆様のお陰で少しは前頭前野の活性化ができたのではと思って、楽しく活動しています。

これからも、利他の精神で従来以上に中小企業の皆様の手伝いに、猪に負けずに邁進したいと思います。



三村 康夫

(昭和 10年生まれ)

コンサルタントとして独立後2回目の年男となりますが、多分これが最後(?)と思いながら1年1年を大切に生きて行く思いです。

「独立のきっかけとなったMG(マネジメントゲーム)研修に、BSC(バランス・スコアカード)などの経営管理手法を取り入れた、企業の業績アップに貢献出来る研修手法の開発に力を入れて行きたい」これが今年の抱負です。出来れば多くの皆様にMG(マネジメントゲーム)研修のインストラクターとしてご活躍いただきたく、その養成にも努めて参ります。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



梅本 憲一

(昭和 22年生まれ)

還暦を迎えることになりました。昨年のもをもって退職したこともあり、これまでの新年とは異なった新たな気持ちで新年を迎えています。

今後の生活に期待半分、不安半分という気持ちでいます。

今後の生活に向けてまずは次のことに取り組んでいきます。

- ・10年ぶりに神戸に帰るので、早く地域にとけこむこと。
- ・生活環境の変化に対応すべく、健康づくり。
- ・今後も社会の一線でいられる場を見つけること。

年を重ねるごとに、月日の経つのが早く感じられます。一日一日を大切に少しでも社会に貢献できればと思っています。



相良 紘

(昭和 22年生まれ)

昔ば「赤いチャンチャンコを着せて」と揶揄っていた私も、気がつけば60歳。しかし、私より年配の方が街中を闊歩し、社会でも活躍しています。

還暦とは十干と十二支の組み合わせで、60年で一回りすることを意味しています。ということは新たな人生の再出発です。振り返れば十数年前は、生活のため、会社のために仕事をしてきたかも知れませんが、でも最近ではゆとりを持って、本当に大切なことは何か、を自分に問い続けながら毎日過ごしています。60年一回りを機に、これからは社会の役に立つことを念頭に置きながら、仕事をしたいと思っています。でも先輩諸氏と比べると、まだまだ小僧っ子です。これからもご指導のほどよろしくお願ひいたします。



田淵 方美

(昭和 22年生まれ)

団塊の世代の私は、今年、還暦を迎えます。干支そのもので猪突猛進、壁にぶちあたっても生き方を変えられない不器用な性格ではありますが、

今はなき両親、兄弟、妻、子供、友人、上司、部下と周りの人に恵まれ、助けられ、これまで本当にありがたい日々を過ごすことができました。定年をまもなく迎えるにあたり、今日の私があるのは支えていただいた方々のおかげと感謝しております。今後は、これまでの経験を活かし、社会に少しでも役立つような生き方をしていくとともに、第二の人生を大いにエンジョイして過ごしたいと思っています。

江尻 幸雄

(昭和 34年生まれ)

皆様、あけましておめでとうございます。4回目の年男を迎えることとなりました。

8年前の40歳に『美しい40歳代』を目指して独立しました際に、ある人からは『美しい』とは弱々しい...』とご指摘を頂きました。しかし、理念が人にも企業にも必要であり、この言葉を理念に私は進んできました。(最近、安倍総理の『美しい日本』が出て、言い易くなりましたが)この理念の実現化を目指して、今年も様々な取組みにチャレンジしていきます。と同時に、中小企業発展のご支援にさらに努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。

**安井 春彦**

(昭和 34年生まれ)

皆様、明けましておめでとうございます。年男ということでご挨拶させていただきます。

私は一昨年6月に株式会社総研を設立し創業致しました。以来、診断協会兵庫県支部を始め、たくさんの皆様方のご支援を頂戴しお蔭様で2回目のお正月を迎えることができました。心から感謝致しております。

さて、今年はと申しますか、これからも弊社のモットーであります「10年後も感謝される仕事をする」ことを常に念頭に置き、中小企業様の発展のためにますます精進して参る所存でございます。どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



医療福祉経営研究会の現状と目標

医療福祉経営研究会 森 博人

明けましておめでとうございます。新年を迎えて、我々兵庫県支部の医療福祉経営研究会は、現在10名の会員を擁して医療経営及び福祉経営の研究と診断のビジネス化を進めております。

当会の元をたどれば、平成14年度マスターセンター補助事業に、兵庫県支部の有志が集って「医療福祉業界におけるCS経営(患者満足度経営)の現状と課題」を取りまとめたことが源になります。医療福祉業界は、診断士にとってまだほとんど手をつけていない領域でありましたが、当時公的介護保険制度の導入に伴い、中小企業診断士としても当事業の発展に貢献したいとの熱意が生まれてきました。医療福祉業界も一般企業と同様にサービス業として、患者(顧客)満足度の視点に立った経営をしなければ生き残れない時代となってきたことが背景にあります。

引き続いて、平成15年度マスターセンター補助事業として「介護保険事業者の実態調査と今後の経営戦略」を取りまとめました。介護保険制度により、従来の措置から利用者が選択する制度になり、民間事業者の参入が始まりました。この実態を把握

して中小企業診断士はどのように対応するべきか、手探りで調査・検討をおこなった経緯があります。幸い介護保険事業は急激な高齢化社会の到来とともに多様な発展が見られ、国における修正が加えられながら、サービス業として現代社会になくはない業界をつくるにいたりました。

このような経緯を経て、医療福祉経営研究会の現在の目標は、介護保険制度改正の一部ですが、介護保険事業者にとっては経営環境が大きく変化しているなかで、“介護保険事業所における経営管理自己診断表”のアンケートを実施することです。主たる対象は介護ビジネスに絞り、中小企業診断士としてどのように経営診断・指導に取り組むのがよいのか、検討を重ねて参ります。新年からは新しい成果を踏まえて研究会会員が医療業界及び介護事業者に貢献できるよう活動してまいります。どうぞよろしくお願ひします。



地域産業活性化研究会活動報告

地域産業活性化研究会 上村 隆夫

地域産業活性化研究会は、地域産業興隆の一助になりたいと願い、観光業、旅館・ホテル業を中心に研究を続けてきました。ここでは最近の活動を紹介して、皆様に当研究会へのご参加をお願いしたいと思います。

1. 但馬地域への研究旅行

9月25日(月) 26日(火) 但馬地域東部5箇所を訪問して意見交換、施設の見学、旅館の診断演習などを行いました。

県商工会連合会但馬支所

谷垣忠之支所長と吉谷文雄主幹からお話を聞きました。地域産業が少子高齢化の影響を強く受けている、中小企業支援メニューが多数あるが企業側に十分伝わっていない...などの中で、但馬のブランド化、観光客の誘致イベント、後継者育成のための創業塾の開催など、多岐に取り組んでおられます。

但東町商工会

藤田和久経営指導員のお話によると、但東町では主力であった絹織物(但馬ちりめん)産業が縮小するなかで観光に注力しており、10万人程度であった年間観光客数は現在50万人に増えているとのこと。一方、伝統の絹織物を用いた近代的な衣料の開発などにも取り組んでおられます。

日本・モンゴル民族博物館

田園の中にポツンと立っているユニークな博物館です。多数の文物の公開とモンゴルからの実習生の受け入れを行っています。

第三セクター「株式会社シルク温泉やまびこ」

運営する「但東シルク温泉館」に宿泊し、事前に準備したSWOT分析資料により旅館の診断演習を行いました。温泉、食事、サービスいずれもグッドで、割安感がありました。一軒だけの温泉ですが、年間30万人が訪れる人気温泉です。

どぶろく特区「八平だるま」

平成10年から農家民宿を営んでおられ、県道から細い道を数百メートル入った集落にある客室2室、宿泊定員10名の小さな民宿です。「テレビを置かないなど静かな環境でゆっくりと休暇を過ごしてもらおう」、「気さくなおもてなしと地元の安全な食べ物を提供する」などご主人夫妻のこだわりが伝わる交流スペースです。ちなみに、お客さんはほとんどがリピーターです。

昼食(自家栽培野菜中心のメニュー、味噌、そば、豆腐、醤油もすべて自家製)をとりながらお話をうかがいました。開業時の奮闘の様子、近隣との協力、役場による集客応援など興味深いお話でした。『高い宿泊費はいただけないのでお金儲けにはなりません、お客様とのふれあいを通じてヒト儲けのできる楽しい仕事です』と言われた女将さんの笑顔が印象的でした。

但東町では派手な観光施設は見当たりませんでした。しかし、平穏な地域風景の中に、懐かしい風土、人情、のんびりとしたやすらぎなど無形の観光資源がたくさんありました。これからは、これらの観光資源を有機的に結びつけた観光開発が一層重要になるでしょう。このような地域は県下に多数あると思われるので支部でもぜひ応援したいものです。お目にかかった皆様方、ありがとうございました。

2. 「兵庫県におけるツーリズムの現状 および今後の計画・課題」

11月2日(木)の月例会では、外部講師として島田三津起様(兵庫県産業労働部観光局観光政策課 観光企画調整係 係長)にご講演いただきました。

主な内容は

兵庫県では平成18年4月に、観光ツーリズム推進本部、観光参事、観光局を新設した。また「ひょうごツーリズムビジョン」を作成してツーリズム行政に注力している。「ツーリズム」を幅広い地域間交流と理解し、物見遊山のイメージを持ってしまったいわゆる「観光」とは異なるイメージの含みがある。観光客数は、現在の1億2千4百万人から平成2年度には1億5千万人に増やしたい。

全県のツーリズム行動プログラム、国際ツーリズム行動プログラム、地域ツーリズム行動プログラムなどが進行している。各市町村の観光資源を活用したオンリーワンの地域づくりを行いたいと考えており、10の県民局地域ごとに「創造育成 伸ばす」の考え方で計画を進めている。

などでした。

会議後懇親会を催し、有意義な情報交換を図ることができました。



八平前でご主人 能勢 勇さん(右から二人目)と

「経営活性化研究会12月度視察旅行」記

兵庫県支部 副支部長 石川 淳二

「地元兵庫の先端技術施設と地域活性化事例の視察」が12月8日(金) 9日(土)に実施されました。以下旅行記です。

財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所、ものづくり支援センター編

尼崎市に行きました。前者の「見もの」は「CO₂レーザ加工装置」。45kWの容量の装置は世界で4台しかないとのこと、その1台がここにあります。そんなにすごいものがこんな近くにあるとは、とほいうものどのくらいすごいかわからない。世界に4台しかないことに感心しきりでした。

後者の見ものは「三次元積層造形装置」。型を使うことなく樹脂の試作品ができてしまう。CADで設計したものが、三次元画として画面上で完成品がみられます。普通はここまで、それを手にとって触ったりすることはできません。それがこの機械では実物ができてしまうのです。まさに手にとって使えるのです。更に不思議なのは、中に塊を入れ込んだ鈴が1度の加工で出来、完成すると音がでます。10年ほど前は型を作って成型しないと現物はできませんでした。それが型なし(カタナシ?)です。

防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター編

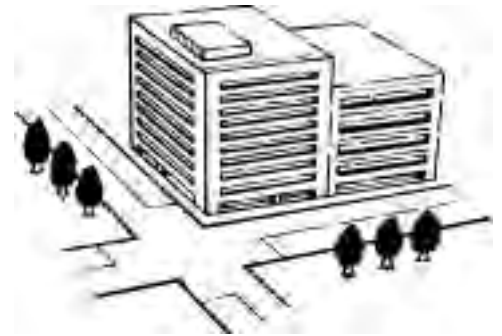
三木市に行きました。最近、「見える化」とか「現場力」とかが言われます(特に製造業で使われます)。目の前で実物大(例えば鉄筋コンクリートの6階建て構造物)の建物が地震にあつて、壊れていきます。勿論見学のためには壊してはくれませんが、ビデオと現場で想像できます。今までは計算で、シミュレーションで、模型で等、色々な方法で理論を裏付ける実験をしてきました。「実大三次元振動破壊実験施設」はそれをまさに「見える化」してくれます。貧乏人はついお金のことを考えてしまいましたが...

いこいの村はりま編

加西市に行きました。ここで宿泊です。総勢9名の懇親会でした。語るほどに、飲むほどに、カラオケとなりました。トリのはずの大御所・千田さんの歌が先に出てしまったり、のハプニングもありました。結局「トリ」が何回もあり楽しい飲み会となりました。

料理は季節にふさわしい鍋物でした。貝がありました。煮ても開きません。係りの人に「これ死んでるんじゃない」というと、「そういうのもありますよ」というような言葉で軽く受け流された。

会食も終わりそれぞれ部屋に戻りました。そのうちどこか



らか「ジャラ、ジャラ」と聞こえてきました。それをかすかに聞きながら、眠りについた人もいたし、それでは私もとがんばった人もいたようです。

西脇市TMO編

二日目、9時半出発とゆったりでした。朝風呂を楽しむ人、朝寝を楽しむ人。

TMOとして成功の西脇市の見学でした。さすが、説明も熱が入っており、成功の素を感じさせてもらいました。毎月ひとつのイベントを継続して実行している点、また西脇の地場産業である「播州織」と関係づけ、町おこしプラス地場産業の発展と両方に貢献している点もすばらしい。

TMO活動の拠点となっているのが大正時代の高級民家「旧来住家住宅」です。国の登録有形文化財となっているだけに立派な建物でした。建ってから88年経過していても障子・ふすまのたてつけは、文字通り寸分の狂いもなし。これなどは序の口で、使われている材料は「すごい」の一言です。この家を建てるのに「いくらかかったのですか」との質問に対して、ガイドさん(この人の説明も良かった、当年83歳とか)は、「大工の工賃をベースに換算すると5億円です。しかし、今ではいくらお金を出しても買えない材料があちらこちら使っていますからね」とのこと。

TMOを勉強の後、「西脇まちなか歩こうマップ」を片手に参加者それぞれ西脇の町を散策しました。蛇足ながら、このマップは、大場副支部長の支援の結果できたものとか、はじめての人にもよく分かり、一人で十分楽しめました。





支部だより

明けまして、おめでとうございます。昨年末で、支部事務所を移転して満1年経過いたしました。会員の皆様のご協力もあり、この1年、支部への来訪者も格段に増え、にぎわいも出てまいりました。今年は、さらに会員の皆様へのサービスの充実を図ってまいりますので、ご期待ください。ところで話は変わりますが、昨年10月以降のトピックスをご報告申し上げます。

まず第一には、10月14日にプロコン育成塾が始まったことです。前年実施分とは異なり、今年度からは実務ポイントが6点取得できることになっています。受講者は18名で、現在、企業訪問・実地診断の段階に入っています。

第二としては、本部長等を迎え中小企業診断協会・近畿ブロック事務連絡会議が11月17日に県民会館で開催され、幹事県としてスムーズな運営を行うことができました。懇親会では近隣の中小企業支援機関の幹部にもご出席いただき、交流を深めました。

第三としては、平成18年度「中小企業経営診断シンポジウム」で、支部会員である坪野克彦理事が優秀賞(日本経済新聞社賞)同じく会員の小畑秀之・坪野両氏が中小企業診断協会会長賞を受賞し、表彰されました。

次に支部業務の流れですが、5月の支部総会に向けた各種資料の整理・作成作業や、新年度理論更新研修実行委員会の立ち上げ等が予定されています。(この時期から徐々に準備しないと間に合いません！)

今年も、親しみが持て、オープンで、会員や地域のためになる支部を目指して執行部一同、努力いたしますので、会員の皆様のご支援、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

なお、支部では引き続きメール配信希望者を募集中です。配信ご希望の方は、支部事務局宛て、電子メール(パソコンのみ)にて、お申し込みください。
総務委員長 平井清美

各研究会スケジュール

● 神戸の経営活性化研究会

問合せ先:兵庫県支部 078 362)6000

日時	場所	テーマ	講師
2月5日(月) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター	日本経済と兵庫県経済の現状と課題 -安倍政権下の経済運営-	日銀神戸支店長 恵谷 英雄 氏

● 診断技術向上研究会

1月17日(水) 19:00~21:00	マーカー神戸ビル14階	環境の視点から見た戦略	未定
2月21日(水) 19:00~21:00	マーカー神戸ビル14階	BSCによる戦略事例研究 全体発表・意見交換会	未定

● 経営法務研究会

1月18日(木) 18:30~20:30	支部事務所	介護保険関連法規	井上 雅晴 氏
-------------------------	-------	----------	---------

● 地域産業活性化研究会

1月12日(金) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 支部事務所	未定	研究会全員
2月7日(水) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 支部事務所	未定	研究会全員
3月7日(水) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 支部事務所	未定	研究会全員

● ひょうごオンライン総研(HOO)

1月23日(火) 13:30~16:30	神戸市産業振興センター 902号室	第1回ひょうご元気企業交流会 「元気企業の業務改善の進め方」	研究会会員 朝見 昇 氏
-------------------------	----------------------	-----------------------------------	-----------------

● 企業内診断士活性化研究会

1月10日(水) 19:00~21:00	神戸クリスタルタワー 10階 セミナールーム	環境経営コンサルティングの事業展開	(株)ジームス・アソシエイツ代表取締役 中小企業診断士 環境プランナー ER 有岡 義洋 氏
-------------------------	---------------------------	-------------------	--

研究会会員以外の方も歓迎(有料:1,000円)

● 医療福祉経営研究会

1月9日(火) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 支部事務所	介護保険事業者に対するアンケート調査実施	会員(未定)
------------------------	----------------------	----------------------	--------

編集後記

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、また新たな気持ちで新年を迎えられたことでしょうか。

新年号を皆様のお手元にお届けいたします。今年はいよいよ200年の問題の初年に当たります。すでにあちこちでも報じられていますが、社会では新たにどのような現象が生じてくるでしょうか。診断ひょうごではシリーズでそれぞれの業界の紹介をしていきます。何かのヒントにいただければ幸いです。

(相)